

日高高等学校（中津分校）

実施日時	下記詳細参照
参加者	生徒67名、教職員10名 計77名
実施内容	応急手当講習、避難訓練、グループワーク等

主なプログラム

（1）応急手当講習（5/22）[1年生対象]

①目標

地域の消防署に応急手当講習を依頼し、消防隊員の指導のもと心肺蘇生法や応急手当等についての実践力を身につける。

②内容

○心肺蘇生法及び応急手当（止血法）

（2）避難訓練（第1回：火災対応）（9/18）

①目標

理科室で火災が発生したとの想定で、安全な避難経路を確認するとともに、その状況下での率先避難者たる資質や能力を身につける。

②内容

○避難訓練

（3）避難訓練（第2回：地震対応）（11/2）[全校生徒対象]

①目標

大地震発生を想定し、火災発生とは異なった安全な避難経路を確認するとともに、その状況下での率先避難者たる資質や能力を身につける。

②内容

○避難訓練

（4）災害への備え講習、グループワーク

（11/2）[1年生対象]

講師：日本赤十字指導員2名、学校教育局

健康体育課 防災安全班 河越仲裁指導主事

①目標

近い将来予想される自然災害についてそのメカニズム等を理解し、防災・減災への意識を高める。

②内容

災害への備えや災害時の対等等について

（5）防災時の新聞紙によるスリッパ作成、簡易トイレ作成（11/2）[1年生対象]

講師：学校教育局健康体育課 防災安全班

河越仲裁指導主事

河越仲裁指導主事

①目標

避難時の訓練を実施することをとおして防災・減災のための実践力を身につける。

②内容

プログラム全体について振り返りシートの記入





参加者感想文

- 家でも災害について家族で話し合うことが必要だと感じた。
- 災害時の紙トイレは、もしものときは役立つと思う。家族にも作り方を教えたい。
- 災害はいつ起こるかわからないのでしっかりと知識をもっておかないといけないと思った。
- 紙トイレをうまく作れる自信がある。地域の人役に立ちたいと思う。
- 今回学んだことを、災害が起こったときに生かしたいと思う。
- 地域の避難場所などを知っておきたいと感じた。

成果と課題

- 災害や防災についての基礎的・基本的な内容を理解させることができた。
- 各訓練はグループ別の参加体験型の指導方法であったため、生徒の興味関心を高め、主体的に学ばせることができた。
- 今年は、9月の台風被害で1週間近い停電を経験し、不便な生活を強いられた。そのため例年になく高い関心を持って取り組めた。
- 各プログラムは教職員が中心となり開発したが、今後は生徒会を中心にプログラム開発に参画させたい。
- 地域と協働した取り組みがなかなかできていない。「共助」の意識を高めるプログラムの工夫が必要である。